

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスgoat		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19人	(回答者数) 14人
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日		～ 令和8年2月27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数) 5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画に基づき、児童一人ひとりの特性やニーズに合わせた支援を実施している。支援計画の作成や見直しにおいては、職員全体で共通理解を図りながら支援に取り組んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントを実施し、児童の特性や保護者のニーズを踏まえた個別支援計画を作成している ・支援計画作成時には職員間で意見交換を行い、共通理解を図ったうえで支援を実施している ・モニタリングや日々の記録を通して、児童の変化や成長を確認しながら支援内容の見直しを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメント方法の充実を図り、より具体的な支援目標の設定を行う ・職員研修を通して支援スキルの向上を図り、専門性の高い支援を提供する ・関係機関との情報共有を強化し、より多面的な視点から支援計画の充実を図る
2	支援前後の打ち合わせや記録を通じて、職員間の情報共有を徹底し、チームでの支援体制が構築されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・支援開始前の打ち合わせ(朝礼)にて支援内容や役割分担を確認している ・支援終了後の振り返りを通して気づきや課題を共有している ・支援記録を作成し、職員間で児童の状況を共有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討やケース会議を実施し、支援の質向上を図る ・伝達研修などを通して、職員間で知識や支援技術を共有する ・支援方法の共通理解をさらに深め、チーム支援体制を強化する
3	運動活動を中心としたプログラムを実施しながら、子どもが自己選択・自己決定できる機会を設け、主体性を育てる支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動プログラムを定期的に見直し、児童の発達段階に応じた内容に調整している ・個別活動と集団活動を組み合わせ、子どもの状況に応じた支援を行っている ・活動の中で児童が選択できる場面を設け、自己決定を尊重している 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流や社会体験の機会を増やし、社会性の育成を図る ・イベントや地域活動を通じて、児童の社会参加の機会を拡大する ・多様な活動プログラムを導入し、児童の興味関心に応じた支援を充実させる

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもたちや他事業所との交流機会が十分ではない。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベントや交流活動への参加を検討し、地域とのつながりを広げる ・他の放課後等デイサービス事業所や地域団体との情報交換の機会を増やす ・学校や地域機関との連携を強化し、交流機会の創出を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日開所や長期休暇を活用し、地域交流イベントの実施を検討する ・地域の子どもたちとの交流活動や社会体験活動を取り入れる ・地域に開かれた事業所運営を目指し、イベントや体験活動の機会を増やす
2	保護者向け研修やペアレントトレーニングなど、家族支援の機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者向けの勉強会や情報提供の機会を設ける ・面談や相談対応の機会を通して、保護者支援の充実を図る ・保護者同士が情報交換できる機会を検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・親子参加型イベントやワークショップの開催を検討する ・ペアレントトレーニング等の家族支援プログラムの導入を検討する ・保護者同士の交流の場づくりを進める
3	静養スペースや個別対応スペースなど、環境面でのさらなる整備が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の状況に応じて静養スペースや個別対応スペースを確保する ・パーテーション等を活用し、環境の工夫を行う ・安全面や過ごしやすさを考慮した環境整備を進める 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所内のレイアウトの見直しを行い、より活動しやすい環境を整備する ・児童の特性に応じた環境調整を行い、安心して過ごせる空間づくりを行う ・今後の利用児童の状況に応じて環境整備の検討を行う